

憲法問題と恒藤恭

法哲学者・恒藤恭は、1964（昭和39）年に著した『憲法問題』の中で「日本国民が真に自主的な立場から日本国憲法を再検討し、その改正に着手すべき時期は、現在未だ到来していない、という認識こそは、憲法問題、とりわけ改憲問題を解決するための基準である、と考えられるのである」と述べています。ここでいう「憲法問題」は、日本国憲法に対する恒藤の視点を、より先鋭的に示したものとも言えるでしょう。

本シンポジウムでは、角田猛之氏より、恒藤の講演「文化国家トハ何ゾヤ」をもとに、田中耕太郎（元最高裁判所長官・法哲学者）の文化国家論との比較を交えつつ、文化国家問題としての「憲法問題」をお話しいただくとともに、桐山孝信氏より、1950年代の社会状況や、日中・日ソ・対アジアといった国際情勢の把握にもとづいた、恒藤における国際政治問題としての「憲法問題」をお話していただきます。「憲法問題」という視点を通して、恒藤における憲法への理論と実践についての軌跡を顧みる機会となれば幸いです。

あわせて、大阪市立大学恒藤記念室にて編集中の『恒藤記念室叢書』について、その概要をご紹介致します。



恒藤恭（1956年卒業アルバムより）、『憲法問題』1964年（左）、2020年（右）発行

報告

角田 猛之（関西大学名誉教授）

「恒藤恭の憲法問題と文化」

桐山 孝信（大阪公立大学名誉教授）

「恒藤恭と憲法問題と国際政治」

総括コメント

広川 禎秀（大阪公立大学大阪市立大学恒藤記念室特任教授・大阪市立大学名誉教授）

話題提供

中村 奈々（大阪公立大学大学史資料室研究員）

「恒藤記念室叢書について」

司会

安竹 貴彦（大阪公立大学大学院法学研究科教授）

入場無料

★申込み不要★

2024年（令和6年）

11月30日（土）

13:30～16:30（開場 13:00）
大阪公立大学 杉本キャンパス
学術情報総合センター 1階
文化交流室

問い合わせ先／大阪公立大学＜杉本キャンパス＞ 〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大学史資料室 tel : (06)6605-3371/fax : (06)6605-3372 / 学術情報総合センター tel : (06)6605-3211/fax : (06)6605-3218

■主催 大阪公立大学 大阪市立大学恒藤記念室 / 大学史資料室

プロフィール

角田 猛之(つのだ たけし)



関西大学特別契約教授、関西大学名誉教授。博士（法学）

専門は法哲学、比較法文化論。『日本社会と法』（晃洋書房、2020年）、『戦後日本のく法文化の探求> 法文化学構築にむけて』（関西大学出版部、2010年）、『法文化の諸相 スコットランドと日本の法文化』（晃洋書房、1997年）、その他。恒藤法哲学に関しては、「第2章 文化の探求 法文化のパースペクティヴから」（竹下賢・角田猛之編『恒藤恭の学問風景』（法律文化社、1999年））、恒藤恭『憲法問題』（講談社学術文庫、2020年）の「解説」、「法哲学者・恒藤恭の憲法論」（関西大学『法学論集』70巻4号、2020年。）

桐山 孝信(きりやまたかのぶ)



大阪公立大学名誉教授。博士（法学）。

専門は国際法。大阪市立大学大学院法学研究科教授、大阪公立大学大学院法学研究科教授を経て、名誉教授。『民主主義の国際法』（有斐閣、2001年）などの著書がある。恒藤の法学研究では、「戦後世界と恒藤恭の社会科学研究」（『法学雑誌』64巻1・2号、2018年）、「恒藤恭と憲法問題研究」（桐山孝信ほか編『民主主義の深化と真価』文理閣、2024年）ほかの著作がある。

広川 禎秀(ひろかわ ただひで)



大阪公立大学大阪市立大学恒藤記念室特任教授、大阪市立大学名誉教授。博士（文学）。

専門は日本近現代史。『恒藤恭の思想史的研究』（大月書店 2004年）など、恒藤恭の思想史的研究を行い、近作に「時代と対峙する恒藤恭の思想と実践」（『大阪公立大学史紀要』第2号、2023年）ほかがある。長く大阪市立大学大学史資料室長を務め、大阪市立大学恒藤記念室の資料充実に尽力した。大阪市立大学大学史資料室編『向陵記 一恒藤恭 一高時代の日記一』（大阪市立大学、2003年）の編集・刊行では中心的役割を果たした。

【恒藤記念室所蔵資料の展示】

(13:00 より会場にて)

